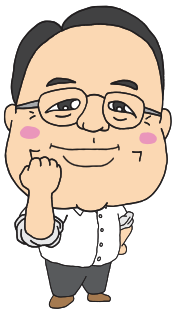
トオルの政策

保育現場の声を国政へ！



私は、保育の課題解決を図るため、政治の場から28年間、子どもたちのために全力を尽くしてきました。保育現場の声に耳を傾け、保育現場に寄り添い、保育現場の声を届けるため国政へ挑戦します。

元保育園園長

金城トオル

金城トオルってどんな人？

Q どんな子ども時代だったの？

身近に感じていた沖縄の不条理

私の出身地は那覇市垣花町で現在では那覇軍港の中、実家は軍港の向かい側、山下町で銭湯を営んでいました。

当時4歳 父と山下町にて

父を亡くし長男兄と母、祖母が切り盛りをしていました。当時周辺は、米兵がたむろし、米兵相手の飲み屋もかなりありました。ある日、十数人の米兵が酒に酔って、銭湯に押しかけてきました。拳銃を抜き、これ見よがしに威嚇し、女湯に入り込む。我が物顔でした。母から「警官を呼びに、交番に行け」と言われましたが、足がすくんで動けなかった。今もこの記憶が消えることはありません。こんなことがあっても事件にもならない。この様な不条理が当時の沖縄ではよくありました。

当時20歳 学生時代

Q 政治家を志したきっかけは？

声なき声の代弁者として

1979年、25歳で保育園の経営を始めました。子ども達が成長していく姿を親よりも近くで寄り添える仕事は、自身の子育てとも重なり、やりがいを大いに感じていました。30歳のとき那覇市保育園長会の会長となりました。保育環境の改善のため議会へ陳情・要請等を行う中、子育て世代の声が政治に反映されにくいという、もどかしさを感じていました。子育て世代の意見を、声なき声を届ける代弁者として、私は1992年に自民党公認で那覇市議に初当選をしました。当時は基地を否定するのではなく現実的にどう経済発展に活かせるかを考えていました。沖縄の子や孫たちのために、将来の沖縄がどうあるべきか。その中で沖縄の保守として日米同盟、日米安保体制のよりよいあり方を考えてきました。

Q 保守からオール沖縄へ なぜ？

沖縄の保守として故翁長知事とともに

2013年のオスプレイ配備撤回、県内移設断念を求める『建白書』が、今に続く「オール沖縄」の大きな政治的な流れをつくり、翁長雄志知事を誕生させました。県民の思いを踏みにじる自民党政権のやり方は、地方自治のあり方を否定し、民主主義を断ち切る行為で、これを許すことができませんでした。過重な基地負担をはじめとする、困難な立場に置かれている沖縄において、政治は一つの塊になって問題解決に向かっていかなければなりません。「島ぐるみ」で祖国復帰を果たしたときのように、県民が一丸となって立ち向かう時だと決意しました。

翁長那覇市長（当時）と市長室にて

翁長知事を中心に県民がまとまり、辺野古新基地を建設断念に追い込む。当時からその気概を持って頑張ってきました。

デニー知事を支え未来に誇れる沖縄を！

翁長知事の死去に伴い、遺志を引き継いだ玉城デニー知事が誕生しました。県民投票では圧倒的な民意で辺野古反対の意思を県民は示しました。

「未来に誇れる沖縄」を「誇りある豊かな沖縄」を目指して玉城デニー知事を支え、沖縄から始まった保守も革新も中道も含めたこの運動を盛り上げることが、これからの日本を発展させる大きな力になると思います。その為にもオール沖縄の運動をさらに盛り上げて全国の運動へとひろげていきます。

金城 徹（きんじょう とおる）プロフィール

オール沖縄会議共同代表、立憲民主党 沖縄第4区総支部長

昭和28年 沖縄県那覇市生まれ、久茂地小、那覇中、豊見城高校、名古屋電気通信工学院卒業、昭和54年 社会福祉法人千草福祉会設立、昭和56年 千草保育園 園長就任、平成4年 那覇市議会議員（6期）、平成21年 那覇市議会議長（2期）、平成26年 オール沖縄へ参加、令和元年 オール沖縄会議共同代表就任 、前・政策集団「新しい風・にぬふぁぶし」共同代表 ●家族：妻、子4人、孫9人 ■趣味：読書、映画鑑賞、釣り ■これまでの社会活動：元社会福祉法人日本保育協会沖縄県支部 事務局長・相談役、那覇大綱曳保存会垣花実行委員会 顧問を歴任

4区ひやみかち・うまんちゅの会
ニュース号外 保育版
豊見城市翁長854-2 サクセスビル103号室
☎098-996-4861
Fax.098-996-5280

内部資料

衆議院沖縄4区

豊見城市・糸満市・南城市・宮古島市・石垣市・南風原町・八重瀬町・与那原町・竹富町・与那国町・多良間村

保育現場の声を国政へ！

トオルの政策
保育版

1 保育士へ特別手当を支給

現状

コロナ感染者が日々増加する中で、保育園では働く人の子ども達を保育することにより社会を支えています。特に、医療従事者の子ども達をあずかる事が、保育士ひとり一人が社会を支えるモチベーションとして頑張っています。

見直し後

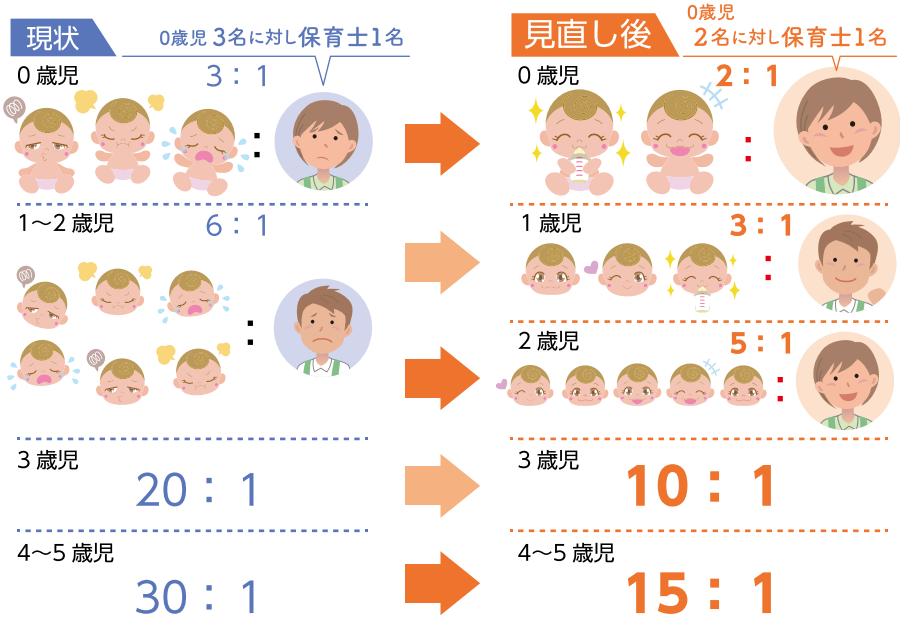
保育園では通常業務に加え、消毒作業、濃厚接触者が発生した場合の連絡業務など、コロナ対策のための業務が増えています。保育士は、高い集団感染リスクの恐怖に直面しながら、地域医療・地域福祉をささえる関係者の子ども達をあずかり、医療現場や社会活動をそれぞれの保育士が懸命な努力で下支えしております。

金城トオルは、政府に対し、**保育士へコロナ特別手当を支給**するよう求めてまいります。

2 保育士の配置基準を見直し

日本の保育士配置基準は、昭和22年に児童福祉法が制定されて以来74年にわたり、3歳～５歳児の見直しが行われていない事も含め、実情に合わない配置基準のままとなっています。保育の質を保ち、安全な保育環境の実現が必要です。金城トオルは予算措置も含め、必要な財源は国に求めていきます。

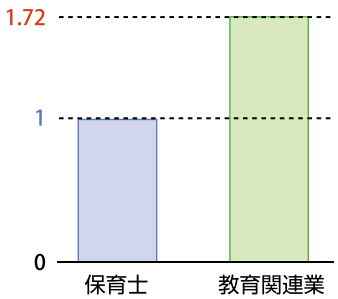
金城トオルは**保育士の配置基準を引き上げ**ます。



3 保育士の恒久的な処遇改善

現状

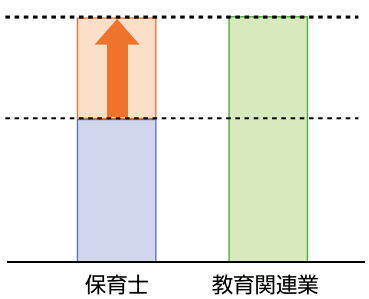
教育関連業は保育士の**1.72倍**



給与水準の比較

見直し後

教員並みの給与水準へ



給与水準の比較

保育士の給与は全産業平均から２割程低い状態です。処遇改善手当てが出ておりますが、単年度毎の制度であり、「いつかなくなるのではないか」等不安な状態です。

金城トオルは手当で給料を上げるのではなく、**保育士の基本給アップ**に取り組みます。将来的に、**教員並みの給与水準に引き上げ**ます。